

# 清里中一年生が堂々と一般質問 二年ぶりに議場で模擬議会開催

15日の午前、議場で清里中学校1年生(27人)による模擬議会が行われました。中学生による模擬議会は、一昨年11月の吉川中学校3年生に続いて2度目です。朝9時過ぎからリハーサル、9時40分からは本番でした。

今回は、一般質問に4人が登壇、今冬は歩道の除雪が不十分でした。今後、どうしますか」「山に捨てられているごみを減らすための取組はどうしていますか」「豊かな自然を使って遊べるようにできませんか」など身近なテーマで質問を繰り返しました。

3回にわたる再質問については、1回目の質問者ではなく、より多くの生徒に体験してもらうため、12人が再質問専用の質問席で1問ずつ質問しました。質問は身近な中学校生活にかかわるものが多く、とてもいい質問だったと思います。答弁した市長役、教育長役、部長役の議員はアドリブを入れながら質問に正面から答えていました。

生徒の皆さんによる質問が全部終了した段階で、挨拶し

た波多野副議長は、「たいへんりっぱな議会でした。今回の経験を生かして、地域の問題をどのようにしたいか、一つひとつ考えていただきたいと思います。できれば、10数年後、(議員になって)この場に来てください」と述べていました。

中学生による模擬議会を2回取り組んで思うのですが、生徒のみなさんとのあげた問題や提案は大切なものばかりでした。これらが実際の政治に生かされ実現すると、生徒のみなさんの政治に対する信頼、期待は揺るぎないものとなります。この点、議会で大いに議論していきたいと思えます。



【白いネジバナ】ラン科の多年草。別名は「モジズリ」。花期は4月～9月と長い。たいがいはピンク色のかわいい花を咲かせますが、写真のネジバナは白です。今年七月に入って、2か所で白花を見つけました。すでにどちらも終わっています。花言葉は「恋しく思うこと」「思慕」。写真は吉川区代石にて撮影。



画H011  
2021.7.15



画H011  
2021.7.15



市の女

## 彫刻家、岩野勇三の作品展

上越市が生んだ著名な彫刻家、岩野勇三の「里帰り展」を観てきました。大島区長者島の古民家が会場でした。

展示されていた作品は、良寛像や女性像など10数点でしたが、古民家の中での展示がぴたり合っていましたね。岩野勇三は彫刻家・佐藤 忠良に師事し、平和美術展にも出展していました。写真は朝市の女性像です。



18日の三八市では、「朝市スイーツ祭り」が賑やかに行われました。すごい人出でしたね。

画H011  
2021.7.18

# はしづめ法一の活動レポート

No.2021 2021.7.25

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第六六八回 おりゃ、何ともねえ

まあ、しょうがないことなんでしょうね。このところ、九七歳の母の言動に「翻弄(ほんろう)」「むねていませす。

先日、市役所での仕事が終わわり、直江津周りで家に帰ってきたときのことです。まさかと思うことが起こり、びっくりするやら、あきれれるやら……。

夕方の六時過ぎでした。家に到着した私は、すぐに母の寝ている部屋に入りました。戸を開けた途端、母の衣類が入っている箱に母がつかまり立ちしている姿が目に入りました。

「おまん、どしたか」「いま、ズボンでがっしるがどい

後で長女から聞いた話だと、この日、母は何を思ったのか、よもぎ採りに行くと言いだしたといふのです。

もちろん、母は昔のように自力で外へ出て歩くことができません。自分の部屋のポータブルトイレに行くにも何かにつかまって移動しています。

よもぎ採りに行くには、長女に説得されて、その時点では断念したようです。でも、「よもぎ採りに行きたい」という気持ちには消えなかつたんですね。

まずは汚れてもいいようなズボンに着替えておこう。外に出るのはそれからだ。たぶんそう思ったのでしょう、自分のベッドから二階ほど離れた場所にある衣類箱のそばへ行ったのです。昔から山菜採りが好きな人間ではありますが、それにしてもすごい気力だと思えます。

前にも書いたように、母は夜、ひんぱんにトイレへ行きます。その際、私が起きると、必ず、声をかけてきます。

自宅にいたり、介護施設に泊まったりの生活ですから、頭の中が「混乱」するのでしょうか。ある日の深夜、母はベッドの上から私に声をかけてきました。

「おりゃ、いま、せこむつになつてる」

「どしたか」

「いま、どこにいるか、わからん」

「心配しねでいいよ。おれがいるから。こ

こは家(うち)だよ。寝ないや」「うん」

似たようなことが数日後にもありました。部屋の電気が急に点いたから目が覚めたのですが、母は、ベッドで布団もかけずに横になっていました。

「しっこ、出てえがか」

「ううん」

「どしたか」

「ここはどこだかと思って」

「心配いらんよ、おまんの家だよ」

「ほっか」

「腹いっぱい、エ」ちやの夢、見とお

「そりゃ、いかつたね」

「よく夢に出とお。川袋のタイスケさんとこへ嫁に行ったがねかな」

「川袋でね、岩沢だよ」

「そいがか」

もうひとつ深夜の話をしましょう。夜中

だというのに、母がお寿司を食べたいとい

い出したのです。

「とちや、オし、寝て初めしよ」

「どしたか」

「腹減つたが」

「がまんしない」

「寿司、一つでいいがでもなあ」

「がまん、がまん。いまねえすけ、今度、

買ってきてやるよ」

昨年体調を大きく崩し、三回も入院した母。病状の変化の発見にもつながるかも知れないと思い、母の言葉は、スマホがそばにあれば、なるべく記録しています。

おかげ様で母は、今年一度も入院することもなく、「おりゃ、何ともねえよ」と言いながら、定期的な通院だけで頑張ってくれています。ここまで来たら、百歳まで生きた板山の伯母をめでたいほし。

## 戦時下の農村部の暮らし伝える写真

高田図書館内小川未明文学館で開催中の「平和展」へもう一度、出かけてきました。スポーツやアスリートが戦争で犠牲になったことを紹介するパネルや写真などがたくさん並んでいました。

今回注目したのは、仲町の佐藤秀定さん提供の写真です。大島区の棚岡や菖蒲などの戦時中の姿が

写っていました。「勤労奉仕」で稲そい(たぶん乾燥させた稲)をする少年団の子どもたち、「勤労奉仕隊」の大人たちなどの写真は初めて見ました。いずれも戦時下の農村部の暮らしをとらえた貴重なものです。

写真は80年ほど前の棚岡の大きな柳の木と橋です。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月14日(水)	7月21日(水)
上越南消防署	0.057	0.047
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.050	0.057
名立分遣所	0.067	0.050
高士分遣所	0.057	0.050